

日本臨床検査医学会

平成 21 年度 第 1 回理事会 だより

日 時：平成 21 年 3 月 29 日(土) 12:00~14:30

場 所：国立大学財務・経営センター  
(学術総合センター) 1F 特別会議室 101  
東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1 番 2 号  
(101-0052) TEL: 03-4212-6321

出席者：宮澤幸久理事長，高橋伯夫副理事長，  
高木 康総務担当，玉井誠一会計担当，  
米山彰子庶務担当，矢富 裕，熊谷俊一，  
諏訪部章，福武勝幸，松野一彦，登 勉，  
石 和久，村田 満，荏原順一，宮地勇人，  
三家登喜夫，小出典男，山根誠久 各理事  
戸谷誠之，中原一彦 各監事(20 名)  
酒井富雄顧問 陪席

欠席者：なし

会に先立ち，名誉会員の藤巻道男先生(82 歳)(平成  
20 年 11 月 9 日ご逝去)，福岡良男先生(92 歳)(平成  
21 年 1 月 8 日ご逝去)，石戸谷豊先生(90 歳)(平成  
21 年 1 月 24 日ご逝去)を悼んで黙祷が行われた。  
その後，宮澤幸久理事長の挨拶があり，熊谷俊一理  
事，山根誠久理事を議事録署名人に定めて，当理事  
会の議事を進めた。

【報告事項】

1. 支部報告

各支部報告の支部例会，支部総会の予定，支部地方  
会予定，支部役員の交代等について報告された。  
東海・北陸支部からは，平成 22 年度より支部長が  
北島勲教授(富山大)に交代されることが報告され，  
承認された。

北海道支部報告(松野一彦 支部長)

1. 支部総会の予定  
第 43 回支部総会

日 時：平成 21 年 8 月 29 日(土) 10:30~  
場 所：札幌コンベンションセンター  
総会長：藤田昌宏(名寄市立大学看護福祉学部)  
内 容：シンポジウム「新たな視点からみた  
免疫グロブリン検査」  
一般演題

東北支部報告(荏原順一 支部長)

1. 支部総会の予定  
第 41 回支部総会

期 日：平成 21 年 7 月 25 日(土)  
場 所：コラッセふくしま  
総会長：金光 敬二(福島県立医科大学  
臨床検査医学 教授)

内 容：未定

2. 支部例会の予定  
第 33 回支部例会

例会長：賀来 満夫(東北大学大学院医学  
研究科感染制御・検査診断学 教授)

関東・甲信越支部報告(宮地勇人 支部長)

1. 支部例会の予定  
第 66 回支部例会

日 時：平成 21 年 5 月 16 日(土) 13:15~17:00  
場 所：都立駒込病院別館講堂  
例会長：大林民典(都立駒込病院臨床検査科)  
内 容：

1. 都立病院における病理検査染色サーベイ  
の取り組み—PAS 染色，Papanicolaou 染色，  
PAM 染色の検討—

(1) 検査技師の取り組み

演者 市川智士(都立府中病院検査科)

(2) 医師の取り組み

演者 江夏一彰(都立府中病院検査科)

2. 特別講演 I 「MUSTag 法による蛋白バイオ  
マーカーの超高感度多項目測定と簡易・  
迅速診断への応用」

演者 柴崎 太

(東京都臨床医学総合研究所)

3. 特別講演 II 「IgG4 関連硬化性疾患」

演者 神澤輝実(駒込病院内科部長)

4. 「医療不信にどうこたえるか—検査に携わ  
るものとして考えておかなければなら  
ないこと—」

演者 小島英明

(三菱化学メディエンス・病理細胞診セン  
ター，神経研)

2. 支部総会の予定  
第 21 回支部総会

期 日：平成 21 年 9 月 26 日(土)

場 所：国立大学財務経営センター

E-mail clin-pat@med.kindai.ac.jp

総会長：米山彰子(虎の門病院検査部長)

### 東海・北陸支部報告(登 勉 支部長)

1. 支部総会の予定  
第48回支部総会(終了)  
期 日：平成21年3月8日  
場 所：じゅうろくプラザ(岐阜市)  
総会長：清島 満 教授(岐阜大学)
2. 支部例会の予定  
第28回支部例会  
期 日：平成21年8月予定  
場 所：福井市  
例会長：木藤知佳志 先生(福井県立病院)
3. その他の報告事項  
3月7日開催の支部幹事会ならびに3月8日開催の支部会員総会において、次期支部長(任期：平成22年1月1日～平成23年12月31日)に富山大学の北島勲 教授が選ばれました。

### 近畿支部報告(三家登喜夫 支部長)

1. 支部総会の予定  
第52回支部総会  
期 日：平成21年11月28日, 29日  
場 所：京都市勧業館「みやこめっせ」  
総会長：佐守 友博(日本医学臨床検査研究所)  
内 容：近畿医学検査学会と同時開催  
事務局(連絡先)：大阪府吹田市原町2丁目45-1  
日本医学臨床検査研究所  
TEL: 06-6380-5242 Fax: 06-6384-4630  
E-mail: t.samori@jcl.co.jp
2. 支部例会の予定  
第54回支部例会  
期 日：平成21年6月27日  
場 所：近畿大学医学部講堂(大阪狭山市)  
例会長：上裕俊法(近畿大学医学部付属病院  
臨床検査医学)  
内 容：「臨床検査からみた生活習慣病」  
事務局(連絡先)：近畿大学医学部付属病院臨床  
検査医学(担当：田中裕滋)  
〒589-8511 大阪狭山市大野東377-2  
TEL: 072-366-0221(内線3511),  
FAX: 072-366-0221

### 中国・四国支部報告(小出典男 支部長)

1. 支部総会の予定  
第55回日本臨床検査医学会中国・四国支部総会  
(会長 小出 典男)  
第150回日本臨床化学会中国支部例会・総会  
(会長 通山 薫)  
第20回日本臨床化学会四国支部例会・総会  
(会長 土井 俊夫)
- 第6回合同地方会  
期 日：平成22年  
場 所：岡山大学医学部臨床第二講義室  
(〒700-8558 岡山市鹿田町二丁目5番1号)  
総会長：杉浦哲朗(高知大学 教授)  
内 容：未定

### 九州支部報告(山根誠久 支部長)

1. 支部総会例会の予定  
第54回九州地方会  
日 時：平成21年9月20日(日)9:00~11:30  
場 所：長崎医学同窓会良順会館  
(長崎市坂本1-12-4  
TEL・FAX: 095-848-5484)  
総会長：岡山昭彦 教授  
(宮崎大学医学部内科学講座  
免疫感染病態学分野)  
内 容：シンポジウム「細菌感染症検査と  
臨床決断—検査結果をどう使うか—」  
座長 山根誠久(琉球大学 臨床検査医学)  
岡山昭彦(宮崎大学 免疫感染病態学)
- (1) グラム染色  
公立玉名中央病院中央検査部 永田 邦昭
- (2) 血液培養陽性/菌種・感受性判明以前の  
抗菌薬投与意思決定について  
佐賀大学医学部  
臨床検査医学講座 青木 洋介
- (3) 迅速抗原検査の臨床的有用性(仮題)  
長崎大学医・歯学部附属病院検査部  
柳原 克紀
- (4) 炎症マーカー・プロカルシトニンを中心に  
(仮題)

宮崎大学医学部附属病院膠原病感染症内科  
高城 一郎

参加費：第49回日本臨床化学会年次学術集会  
参加費に含む

事務局(連絡先)：長崎大学大学院医歯薬学  
総合研究科・薬学部 黒田 直敬

〒852-8521 長崎市文教町 1-14

TEL: 095-819-2894/FAX: 095-819-2444

E-mail: n-kuro@nagasaki-u.ac.jp

その他

本大会は第49回日本臨床化学会年次学術集会の  
プログラムの一部を構成する合同企画開催となりま  
す。

## 2. 各種委員会報告

### A. 学術推進化委員会(矢富 裕 担当理事)

第55回臨床検査医学会で学術推進プロジェクト  
報告会として、平成19・20年度学術推進化プロジ  
ェクト研究報告、学術推進化委員会主催パネルディ  
スカッション、オーダーメイド医療を開催したこと、  
また、21・22年度学術推進プロジェクト研究課題募  
集を行い、委員会では審査の結果6件を採択課題と  
決定したことが報告された。

### B. 編集委員会(熊谷俊一 担当理事, 矢富 裕 委員長)

#### 1. 編集委員交代について

本年より下記の委員が就任された。

順天堂大学 三井田 孝 先生

北里大学 大谷 慎一 先生

さいがた病院 下村登規夫 先生

#### 2. トピックス, シリーズについて

石田委員企画

「臨床検査情報の有効利用を目指した診療支援シス  
テム」

奥村委員企画

「トピックス：注目される新しい病態・疾患概念と  
臨床検査—消化器系疾患—」

熊谷委員企画

「トピックス：注目される新しい病態・疾患概念と  
臨床検査—自己免疫疾患—」

臨床病理誌トピックス企画「凝固検査の進歩〜ク  
ロスキニング試験を中心に〜」

関西医科大学 小宮山豊

シリーズ:ISO15189

富山大学 北島先生, 徳島大学 土井先生, 岡  
山大学 小出先生

JCCLS

谷口委員「心血管系に潜む病をエコーで探る」  
前編集委員会での企画「シリーズ：研究しましよ  
う(論文を書きましょう)」

#### 3. 座長推薦論文について

2007年学術集会において、80題の推薦をいただ  
き、9論文が投稿された。

学術集会ではプログラム委員会による「優秀演題  
賞」が選定されているが、「優秀演題賞」について  
も同様の扱いにしてはいかがかという意見があった。  
本件については理事会において検討していただくこ  
ととする。

2008年学術集会において、例年通り各座長に座長  
推薦論文の依頼を行い、127題の推薦をいただき、  
各演者に論文投稿のお願いを行った。

#### 4. 優秀論文賞について

「臨床病理誌 優秀論文賞候補論文 選定方法」に  
ついて確認した。

本年度の優秀論文賞につき検討をし、2題を候補  
論文として学会賞委員会へ報告した。

#### 5. 学会賞受賞者への総説依頼について

本年度学会賞受賞者へ本誌への総説依頼を行った。  
内容については編集委員長が確認する。  
また、来年度よりは受賞者に総説をご寄稿いただき  
たい旨、学会賞委員会へ要望する。

#### 6. 投稿原稿審査について

・現在再投稿を受付ける期限を審査結果返送後3ヶ  
月としている。今後、2ヶ月経過時および3ヶ月経  
過時に著者に投稿の進捗状況を問い合わせることと  
する。

2008年投稿状況 12/未現在

投稿総数 72編(新規52, 再投稿20)

掲載受理 47編

返却 4編

取り下げ 1編

2009年投稿状況 3/12現在

投稿総数 13編(新規5, 再投稿8)

掲載受理 7編

日本臨床検査医学会ニュース

C. 教育委員会(諏訪部 章 担当理事)

臨床検査専門医卒後教育研修カリキュラムに沿った評価表の作成を行っていることが報告された。

D. 臨床検査点数委員会(米山彰子 委員長)

1. 平成 20 年度 第 2 回 日本臨床検査医学会臨床検査点数委員会報告(日本臨床検査専門医会保険点数委員会と合同開催)

日 時：平成 20 年 11 月 27 日 15 時～16 時

出席者：米山彰子委員長，狩野有作，木村聡，佐藤尚武，東條尚子，本田孝行，吉田博 各委員，渡辺清明委員(アドバイザー)

欠席者：宮澤幸久担当理事，稲山嘉明，中島一朗，松本哲哉，各委員

オブザーバー：熊谷俊一先生，高橋伯夫先生

内 容：

1) 臨床検査医学会評議員へのアンケート結果報告(08 年 11 月実施)

40 施設(大学病院 31，一般病院 9)から回答

(1) 外来迅速検体検査加算について

・20 年度の改定後，算定数は増えたと回答した施設が多かったが，増加の度合い，算定率はさまざまであった。

・算定方法は医師が紙に記入する方式の他，システム的に入力する施設も多かった。

・次期改定に向けての本加算について要望としては，増点，要件の見直しが挙げられた。

(2) 検体検査管理加算について

・グラム染色を血算，生化学検査と同列の緊急検査項目にはしていない施設が多く，微生物検査室が休日(日曜日等)の日勤帯に出勤をしている施設も約 7 割(土曜のみや 3 連休以上の時のみ等含む)にとどまった。

・グラム染色を常時実施できる態勢は，当直技師が行う他，オンコール態勢で対応している施設が多かった。

(3) 次期診療報酬改定に向けて提案を希望する項目，加算

・新規に提案を希望する項目・加算，既掲載の項目，加算の見直し，診療報酬から削除してよい項目について，評議員から多数の項目が寄せら

れた。

2) 次期診療報酬改定に向けての方針

(1) 生理機能検査管理加算を提案する方向で検討を始める。提案者の宮地委員に詳細を提示してもらい委員会で検討する

(2) 外来迅速検体検査加算の増点に取り組む

(3) その他の項目については継続審議とし，提案する項目を決定する。

2. 平成 21 年度 第 1 回 日本臨床検査医学会臨床検査点数委員会報告(日本臨床検査専門医会保険点数委員会と合同開催)

日 時：平成 21 年 3 月 10 日 18 時～20 時 20 分

出席者：宮澤幸久担当理事，米山彰子委員長，

稲山嘉明，狩野有作，木村聡，

東條尚子，本田孝行，松本哲哉，

吉田博 各委員，

渡辺清明委員(アドバイザー)

欠席者：佐藤尚武，中島一朗 各委員

内容

1) 内保連例会報告(平成 21 年 2 月 24 日)

(1) 宮澤担当理事が検査系副代表を，米山委員長が検査関連委員会の委員長を務めている

(2) 平成 22 年度診療報酬改定に向けたスケジュール

提案書締切：平成 21 年 4 月 10 日

各委員会での調整：5 月

提案書が内保連から

厚生労働省に提出：6 月 10 日

(3) 診療報酬改定提案書についての留意点について

・エビデンスレベルを明示

・国が進める 4 疾患(癌，脳卒中，心筋梗塞，糖尿病)や 5 領域(救急医療，災害時医療，僻地医療，周産期医療，小児医療)と関連すると重視されやすい

・薬事承認のない試薬を用いる項目は対象にならない

2) 内保連検査関連委員会報告(平成 21 年 1 月 28 日)と当委員会の取り組み

(1) 平成 22 年度診療報酬改定に向けて当委員会として取り纏め方

・同一の項目で要望内容が異なるものがあれば調整をはかる

(2) 生体検査への取り組み

- ・外保連試案の経緯，平成 18 年に厚生科学研究として内保連の学会が協力して実施した医師の技術料評価の検討の経緯をふまえ，今後の活動方針について討議された。
- ・呼吸，循環，消化器，神経・精神の 4 分野の検査項目について，複数の観点(人件費，検査の難易度・専門性・実施者への負荷，機器や設備，臨床的有用性)から対象検査を評価し，総合的に増点を求める項目，減点あるいは廃止しても良い項目を検討する。

(3) 上記活動への当委員会の取り組み

- ・4 分野のワーキンググループに医学会，専門医会から 1 人ずつ委員を派遣し，検査専門の立場から各学会と協調し取り纏める

3) 臨床検査振興協議会医療政策委員会の活動報告と当委員会の取り組み

(1) 医療政策委員会の活動報告(渡辺委員長，宮澤担当理事，米山委員長)

- ・臨床検査医学会，臨床検査専門医会，臨薬協，日衛協，技師会(オブザーバー)で診療報酬改定に向けた活動を行っている。
- ・前回改定前には，厚生労働省との勉強会を通じて要望を伝え，検査関連報酬の下げ止まり，微生物検査の増点など成果があった。
- ・今回も，検査の臨床的価値，診療報酬の仕組み，検査のコスト，検査試薬の性能評価の 4 グループで活動している。医学会，専門医会に調査への協力要請を予定している。

(2) 以下の点について協力要請が予定されているので対応する(3~5月)

- ・微生物検査，感染症検査の価値の評価：学会からも提案書を提出
- ・遺伝子・染色体検査の価値の評価：学会からも提案書を提出
- ・血算，末梢血液像についての実態調査：学会からも提案書を提出
- ・検査のコスト調査

4) 次期診療報酬改定に向けて提案項目

(1) 新規

- ・生理機能検査管理加算，時間外生理検査加算，小児検査加算，IgG4，血管内皮機能検査

(2) 再評価

- ・外来迅速検体検査加算の増点，採血料の増点，遺伝子関連検査の増点，微生物検査の増点，血算，末梢血液像の増点，骨髓像の増点，クオンティフェロンの増点，尿と血清で片方しか算定できない件の改善

(3) 削除項目：内保連から各学会に異存の有無を聞いてもらう

- ・D-キシロース吸収試験，便ウロビリノーゲン，尿ポルフィリン体定性，尿ビリルビン定量，尿ウロビリリン定量，好酸球数，動的赤血球膜物性試験(CPC)，尿中 17-OHCS，17-KS
- ・基本診療料に含めるもの  
凝固時間測定，全血凝固溶解時間測定，血清全プラスミン測定

E. 学会賞委員会(矢富 裕 担当理事)

1. 平成 21 年度学会賞選考日程予定

3月1日：評議員へ候補者推薦依頼  
(臨床病理誌 2 月号に会告として掲載，ホームページにも掲載)

4月30日：学会賞候補者応募締め切り

5月初旬~6月初旬：選考委員会

6月初旬：理事長へ学会賞選考結果報告

6月初旬~中旬：理事会での学会賞受賞候補者の審議(持ち回り理事会)

6月中旬~20日頃まで：受賞者への通知並びに受賞講演原稿依頼

6月末日：臨床病理補冊の原稿締切

2. 学会賞に関する規定の一部改定について

編集委員会からの要望により，下記のとおり改定いたしました。

【旧】

(受賞講演)

第 8 条 各受賞者(功労賞，奨励賞，優秀論文賞は除く)は，学術集会において受賞講演を行う。

↓

【新】

(受賞講演・総説執筆)

第 8 条 各受賞者(Bergmeyer-Kawai 賞，奨励賞，優秀論文賞は除く)は，学術集会において受賞講演を行うとともに，受賞テーマに関して総説論文を臨床病理誌に執筆する

ものとする。

**F. 標準化委員会(松野一彦 担当理事)**

1. 治験検査標準化について

4月にはWGのようなものを立ち上げるべく日本、米国、欧州製薬協の関係者と協議中。

大枠が確定したところで、書面会議で委員会に諮りたいと考えています。

2. 平成20年度第一回標準化委員会 議事録

日時：2008年11月27日、午前10時00分～

11時00分

会場：名古屋国際会議場

4号館433号室(名古屋市)

出席者

委員：池田 勝義, 石橋みどり, 植田 成,  
康 東天, 登 勉, 古田 耕, 細萱茂実,  
(アイウエオ順, 敬称略)  
担当理事：福武 勝幸,  
陪席：宮澤幸久(理事長)

**【検討事項】**

(1) 福岡-北京共同精度管理について

当委員会の活動として、上記活動に関与することを候補の1つと考えている旨委員長から発言があった。その是非を考える意味で、11月21日に行われた福岡-北京共同精度管理の実施へ向けた第1回日中共同精度管理研究会に当委員会を代表する形で、池田委員が参加した。池田委員にその経過に関して報告を受けた。概要は以下の通り。

- ・北京主要病院が検査値の互換性の確保のため、福岡5病院会方式を導入したいと考えている。
- ・また、この活動には中国の政府機関が関与しており、日本においても学会等の公的な機関が関与している形式を望んでいる。
- ・福岡5病院会/九州精度管理研究会がこちらで使用しているプール血清を供給し、その運用に関して助言するのが実態。

それを受けて以下のような意見があった。

- ・血清の供給に当たっては、倫理委員会の問題をしっかりとるように。
- ・この活動のファン드가利益相反等の観点から問題ならないように。

今後、正式に活動を開始する前に必要な協定の内容等、適宜メールで委員に連絡し、最終的に参加す

るかを検討することで了承を得た。

(2) 治験検査の標準化について

当委員会の活動の1つとして、治験検査の標準化を候補として考えている旨、委員長より発言があった。古田委員から経過説明があった。概要は以下の通り。

- ・情報収集のため、康委員長と古田委員が、欧州製薬協、日本製薬協の関係者と話し合いを持った。
- ・特に、プレアナリティカル、ポストアナリティカルの管理が重要との印象を受けた。
- ・活動の推進のため、公的な資金獲得への検討もしている。

それを受けて以下のような意見があった。

- ・治験の検体の管理がずさんなケースが見受けられるという現状があり、治験検査の標準化は重要だ。
- ・少数のセントラルラボだけが治験検査を独占することにならず、多くの検査施設が治験に参加できるようにするために、標準化というものを考えるべきだ。
- ・他の学会との連絡と連携を忘れないこと。

今後、さらに製薬協と協議し、ニーズがあれば、委員会内にそのためのWGを立ち上げることで了承を得た。

**G. 精度管理委員会(高木 康 担当理事,  
宮地勇人 委員長)**

1. CAPサーベイの事務局移管について

①事務局機能の全面移管を完了

事務局担当：シノテスト コルビー・インターナショナル・グループ(CGI)に移管(2009年～)

②CAPとの覚え書き/契約書

2. 2009年度CAPサーベイ実施について

①2009年度CAPサーベイの受付状況

参加101施設(2008年度106施設),  
参加中止8施設(理由：予算が取れない等),  
新規参加3施設

②新しい企画

標準サーベイプログラムに薬物モニタリングを追加  
特殊検査サーベイセット新設

腫瘍マーカー, ホルモン, 網赤血球,  
心筋マーカー

2009年度CAPサーベイでは14施設が参加

日本語サービス(キット解説書, 参加施設評価サマリー, 結果報告用紙)を開始

### 3. IVD グローバルニュース発行について

①内容: 臨床検査(室)の運営に必要な海外の検査事情, 精度管理(外部精度評価等)・精度保証, 施設認定に特化した季刊誌

②監修: 精度管理委員会

発行元: コルビー・インターナショナル・グループ

③発行スケジュール

冬号 1月25日創刊号の発刊, 3000部

2800会員に無料送付(100部は直販)

春号 4月25日発行予定

## H. EBLM 委員会(松野一彦 担当理事)

### 1. 第1回 EBLM 委員会の議事

日時: 第55回日本臨床検査医学会総会会期中  
平成20年11月29日(土)1時間半

場所: 名古屋国際会議場

議事:

1) EBLM 委員会の活動の基本指針を討議

2) 活動計画(平成21, 22年度)

・EBLM の基礎となるデータ解析技術の普及を旨とした教育セミナーの開催

実践的なセミナーを毎年総会時に開催

・検査診断学に関する応用データ解析技術のセミナーを開催

第1回を平成21年4月3日に宇部で開催(下記)

・EBLM のための検査診断エビデンスの公開

現在進行中のアジア地域の大規模調査結果を豊富な EBLM のエビデンスとして, Web 上で公開予定(平成21年度末を予定)

・EBLM の基礎技術・応用技術のテキストの刊行  
臨床検査に役立つ応用データ解析を中心にまとめる

・検査診断エビデンスを得るための一次研究の推進

“検査疫学データベース”の構築とその公開を模索

3) 本学会内の関連委員会との連携

・各委員会のニーズを再確認し, これまでの実態・実績を調べ対応を検討

### 2. EBLM 委員会企画教育セミナーの開催

テーマ: 「臨床検査医学のための多変量解析入門」

日時: 第55回日本臨床検査医学会総会会期中  
平成20年11月30日(日)午前9~16時(6時間)

場所: 名古屋国際会議場

参加者: 31名

内容: 講義+演習(ノートパソコン持込)

1) 臨床検査医学における研究デザインと偏り(50分)

山口大学医学部 石田 博

2) 重回帰分析の理論と臨床検査の変動要因の解析(130分)

山口大学医学部 市原清志, 同工学部 山下哲平

3) 多重ロジスティック分析の理論と臨床検査の診断特性の解析(90分)

順天堂大学医学部 三宅一徳,

山口大学医学部 市原清志

4) クラスタ分析の理論と病型分類の実際(50分)

高知大学医学部 片岡浩巳

5) 構造方程式モデリングによる病態と臨床検査成績の因果解析(40分)

大阪大学医学部 山西八郎

評価: 受講者によるアンケート調査結果は好評であったが, 時間配分が悪く, 最後2題は時間不足であった。次年度の開催では, テーマを限定し, より時間をかけて行うこととなった。

### 3. EBLM 委員会企画 第1回応用データ解析研究会の開催(予定)

テーマ: 「新しいデータ解析技術の臨床検査医学への応用」

日時: 平成21年4月4日(土)午後3時40分~6時40分(3時間)

場所: 山口大学医学部 S5 教室

1) 構造方程式モデリングによる病態と臨床検査成績の因果解析

大阪大学医学部 山西 八郎

2) グラフィカルモデリングの臨床検査への応用(60分)

虎の門病院 稲田 政則

### 4. 第2回 EBLM 委員会の開催(予定)

日時: 平成21年4月4日(土)午後7時~

場所: 山口大学医学部保健学科会議室

議題: 今後の活動計画について

日本臨床検査医学会ニュース

I. 倫理委員会(松野一彦 担当理事)

「臨床検査を終了した検体の業務, 教育, 研究のための使用について」学会の見解の改訂について引き続き検討を行っていること, 「臨床研究に関する倫理指針」に関する厚生労働省担当者との面談の概要について報告された。

第二回倫理委員会 議事要約

日 時: 平成 20 年 11 月 27 日 10 時~11 時

場 所: 名古屋国際会議場 4 号館 3 階 435 号室

出席者: 宮澤, 松野, 村上, 安東, 宮島, 横田, 米山, 伊藤

欠席者: 石, 大澤, 吉田(敬称略)

議題

1. 前回議事録の確認

・日本臨床検査医学会第一回倫理委員会議事録の確認を行った。

2. 「臨床検査を終了した検体の業務, 教育, 研究のための使用について」

ー日本臨床検査医学会の見解ーの改訂について

・村上より改訂案についての説明があった。

・見解の 4 の「残存検体の分与」は施設内ではなく施設外への分与ということを明確にするため「他施設への残存検体の分与」とする。

・付記の 6) の臨床検査検体の「遺伝子」は拡大解釈される心配もあるため削除する。

・付記の 7) の業務は, 臨床的有用性が確立された検査に遺伝子関連検査以外も含む意味で, 「臨床的有用性が確立された遺伝子関連検査などを含む。」とする。

3. 全国中央検査部長会・技師長会について

・第 55 回日本臨床検査医学会学術集会全国中央検査部長会・技師長会(平成 20 年 11 月 27 日(木)16:00~17:00)において, 以下のように進行することが申し合わされた。

「臨床検査を終了した検体の業務, 教育, 研究のための使用について」

1) 挨拶

日本臨床検査医学会理事長 帝京大学 宮澤幸久

2) 経過説明

日本臨床検査医学会倫理問題担当理事  
北海道大学 松野一彦

3) 日本臨床検査医学会倫理委員会のアンケート結果について

日本臨床検査医学会倫理委員会前委員長

埼玉医科大学 池田 斉

4) 遺伝学的検査の問題について

日本臨床検査医学会遺伝子委員会委員長

東海大学 宮地勇人

5) 「臨床検査を終了した検体の業務, 教育, 研究のための使用についてー日本臨床検査医学会の見解ー」の改訂について

日本臨床検査医学会倫理委員会委員長

群馬大学 村上正巳

6) 討論

4. 今後の予定について

・第 55 回日本臨床検査医学会学術集会全国中央検査部長会・技師長会での議論に基づいて改訂案を作成して評議員に意見を聞くこととする。

5. その他

・臨床検査の標準化事業などについて倫理委員会で審査できるようになるとよいのではないかと意見が出された。

「臨床研究に関する倫理指針」に関する厚生労働省担当者との面談の概要

日 時: 平成 21 年 1 月 23 日 午前 11 時~12 時

場 所: 厚生労働省医政局研究開発振興課

中央合同庁舎 5 号館 8 階

出席者:

厚生労働省医政局研究開発振興課

治験推進室課長補佐 井本昌克,

ヒト幹細胞臨床研究対策専門官 梅垣昌士

日本臨床検査医学会 理事長 宮澤幸久,

倫理委員長 村上正巳

挨拶の後, 村上より日本臨床検査医学会倫理委員会で進めている「臨床検査を終了した検体の業務, 教育, 研究のための使用についてー日本臨床検査医学会の見解ー」の改訂案について説明した。今回の日本臨床検査医学会倫理委員会の改訂案について担当者から特に問題点の指摘はなかった。その後, 平成 20 年 12 月 26 日に厚生労働省医政局研究開発振興課長より出された「臨床研究に関する倫理指針質疑応答集(Q&A)の周知について」に基づいて以下のような意見交換を行った。

- ・ Q1-1 に関連して、「臨床研究に関する倫理指針」は他の法令及び指針の適用範囲に含まれない、かつ、連結不可能匿名化された診療情報だけを用いる研究ではない医学系研究と位置づけ、今回の Q&A で理解しやすいように図示した。
- ・ Q1-2 に関連して、症例報告やレトロスペクティブに患者の診療情報だけを用いて行う研究については、症例数の多寡などにより、臨床研究に関する倫理指針の適用範囲かどうか判断される。基本的に 1 例の症例報告は対象外と考えてよい。
- ・ Q5-1 に関連して、包括同意については、患者への説明という点で評価される取り組みと考えており、継続してもらいたい。ただし、包括同意のみですべて研究が許可されると考えてもらうと問題であり、包括同意は最低限のラインと考えている。
- ・ Q5-4 に関連して、残存検体とあるが、再検査などの目的で 1~2 週間検査室で保存することは診療業務にあたると思われる。その保存期間の後に残存検体を、業務、教育、研究の目的に分類することになると考えられる。診療業務のための保存期間は、(学会として)ある程度の目安があったほうがよいかもしれない。
- ・ Q5-5 に関連して、残存検体の二次利用に関して異常値を示した症例の残存検体を用いた検討を行うことは、1 例の症例報告に類するものであれば臨床研究に関する倫理指針の適用外とも考えられる。また、異常値を示した症例の検討は、病態理解のための研究というより診療業務の一環とみなされるかもしれない。その後に異常値を示した症例を集めて病態解明のために検討するような場合は臨床研究に関する倫理指針の対象となると考えられる。

**J. 検査項目コード委員会**(玉井誠一 担当理事,  
村田 満 委員長)

平成 20 年度第 3 回検査項目コード委員会議事録

日 時：平成 20 年 11 月 27 日(木)10:00~11:00

場 所：名古屋国際会議場 434 会議室

出席者：玉井 誠一(担当理事),  
村田 満(委員長), 山田 俊幸,  
石黒 厚至, 井上 勉, 山田 悦司,  
岩崎 真司 (各委員)

議題

1. 前回議事録の確認

前回(7月30日)の平成20年度第2回当委員会議事録内容について、異議の無いことが確認された。

2. 平成20年度検査項目コード委員会活動状況

事務局より、本年度の臨床検査項目分類コード(JLAC10)の新規登録はこれまでに25件(分析物17件, 識別8件), 内容変更は識別4件であるが、本日の当委員会でさらに分析物16件, 結果識別(固有)72件を新設承認予定であることが報告された。(年合計の新設コードは113件の予定)

また JLAC10 コードのユーザー領域設定, 医療情報システム開発センター(MEDIS-DC)の標準臨床検査マスター内容の整備, JLAC10 に関する外部(医療施設, メーカーなど)からの質問対応に関する当委員会の活動報告がなされた。

3. JLAC10 コード新規登録申請

(1)平成20年8月, 11月度新規保点収載項目および検査センター要望の分析物コード8件と, 試薬メーカー要望の結果識別(固有)コード(アレルゲン)8件が申請され, 決裁された。

【新設分析物】

名称	コード
酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ 5b (TRACP-5b)	3B222
UDP-グルクロン酸転移酵素遺伝子 (UGT1A1)	8C933
サイトケラチン(CK)19	8C780
5染色体 Sotos 症候群	8B355
VKORC1 遺伝子	8C950
β2 アドレナリンレセプター遺伝子 (ADRB2)	8C825
β3 アドレナリンレセプター遺伝子 (ADRB3)	8C826
UCP1 遺伝子	8C828

【新設結果識別(固有)】

名称	コード
ハウスダスト1	77
カモガヤ	78
ヒノキ	79
ハンノキ	80

日本臨床検査医学会ニュース

シラカンバ	81
ラテックス	82
ソバ	83
ピーナッツ	84

(上記8コードは「アレルゲン特異 IgE：分析物コード 5A100」の「MAST 全科：識別コード 2801」の結果識別(固有)コード)

(2)平成17年度第5回当委員会(11/17)にて確認された、保険点数表上で包括項目化されている項目のJLAC10コードの分析物コード8件と、それぞれの結果識別(固有)コード64件が申請され、決裁された。

【新設分析物】

名称	コード
尿一般物質定性半定量検査	1A990
先天性代謝異常症スクリーニング	1A991
ポルフィリン症スクリーニング	1A992
髄液一般検査	1C990
胃液・十二指腸液一般検査	1Z990
頸管粘液検査	1Z991
精液一般検査	1Z992
末梢血液一般検査	2Z990

\*上記の各包括分析物の対象多結果項目名および結果識別(固有)コードは委員会資料参照。

4. 今後のJLAC10コード新設時の対応

当委員会にてJLAC10コードが新設された際、今後はその都度、臨床検査医学会ホームページのJLAC10コード表の更新、およびMEDIS-DCへの新設情報連絡を実施することが確認された。

5. 検査項目コード委員会への質問対応報告

本年8月から11月までに医療施設・メーカーなどから日本臨床検査医学会検査項目コード委員会へ寄せられたJLAC10関連の質問とその回答(11件)が報告された。

6. その他

既存のJLAC10分析物コード：8B354の分析物名「5q31欠失(CSF1R)」について、当委員会の委員よりCSF1Rの染色体位置は5q31ではなく、5q33-34ではないか、との指摘があったため、確認したところ現在は下記内容であった。

・アボット社資料 → 「5q33-34」

・HUGO資料 → 「5q32」

検討の結果、次回の学会ホームページJLAC10コード表更新時に、一般的なHUGOの表示に基づいて分析物名称を変更することが確認された。

\*分析物コード：8B354の名称変更内容

分析物名

【現】「5q31欠失(CSF1R)」→

【変更後】「5q32欠失(CSF1R)」

英名

【現】「del(5q31):CSF1R」→

【変更後】「del(5q32):CSF1R)」

なお、今回のJLAC10ホームページ更新時のページ上に「お知らせ」として、

「今回、1.分析物コード表内の分析物コード8B354「5q31欠失(CSF1R)」の名称につきまして、最近の知見に基づき「5q32欠失(CSF1R)」に変更いたしました。」と記載することとした。

K. 臨床検査室医療評価委員会(米山彰子 担当理事)

学術推進プロジェクト研究班と委員会がプロトタイプ共同開発を行ってきたが、昨年研究班が終了したため、成果の公表および今後の方針を4月に開催する委員会で検討する予定であることが報告された。

L. 専門医・管理医委員会(高橋伯夫 担当理事)

1. 平成20年8月30日、11月27日に委員会を開催した。臨床検査専門医・管理医の知名度を上げ魅力的なものにするために、現状把握と方策を検討した。一部の委員は専門医会の「専門医あり方委員会」の委員も兼ねていることもあり、専門医については学会ならびに専門医会の関連する委員会と連絡を取り合って進めることとした。

2. 管理医についてはJACLaPニュースの一部を配信する、教育施設の認定条件に管理医を必須にする、専門医受験の際に一定の配慮をする、検査センターの監督医が取得した場合は丸適マークの様な物を発行する、などの案が出され、必要に応じて担当理事経由で学会の該当部署に諮っていただくこととした。

**M. 遺伝子委員会**(村田 満 担当理事,  
宮地勇人 委員長)

1. 日本臨床検査標準化協議会(JCCLS)の遺伝子関連検査標準化委員会(WG-1, WG-2)との連携について

① OECD(Organization for Economic Cooperation and Development:経済協力開発機構)ガイドラインは遺伝学的検査の質保証を担保する上で必要な原則(項目)とベスト・プラクティスについて記述されている。ガイドラインの発効にともない、WG-1では、「遺伝子関連検査に関する日本版ベストプラクティス・ガイドライン」の検討を行っている(2007年～)。

日本臨床検査医学会遺伝子委員会は、学会内の各種委員会や日本臨床検査同学院と連携して、WG-1の活動を支援している。

② WG-2では、遺伝子関連検査の検体品質マニュアルを作成した(2月2日JCCLSのHP掲載, 2月20日冊子刊行)。厚生労働省先進医療専門家会議(2月3日)にて、本マニュアルを遵守することが、遺伝子検査の先進医療の案件において施設要件となった。

2. ファーマコゲノミクス(PGx)検査運用指針(案)について(資料1)

遺伝子委員会で検討作成したファーマコゲノミクス(PGx)検査運用指針(案)について、日本臨床検査標準化協議会(JCCLS)遺伝子関連検査標準化専門委員会のもと、関係学会、団体との調整を行った。さらに、日本人類遺伝学会、日本臨床薬理学会にて意見を窺い修正、承認された。

3. 遺伝子検査の臨床的価値の評価について

臨床検査振興協議会から遺伝子検査の臨床的価値の評価への協力依頼あり、対応中。

**N. 国際委員会**(登 勉 担当理事)

平成 20 年度第 1 回日本臨床検査医学会国際委員会議事録

日 時：平成 20 年 11 月 28 日(金) AM.11:50—PM.12:50

場 所：古屋国際会議場 4 号館 435 号室

出席者：宮澤 幸久理事長,  
杉浦 哲朗(高知大学),  
石井 潤一(藤田保健衛生大学),  
伊藤 喜久(旭川医科大学),  
諏訪部 章(岩手医科大学),

戸塚 実(東京医科歯科大学)

野村 文夫(千葉大学),

日野田 裕治(山口大学)

村上 正巳(群馬大学),

村田 満(慶應義塾大学)

1) 開会 国際委員会の役割についての趣旨説明(宮澤理事長より)

「国際委員会は、平成 16～19 年度は設置されておらず、本学会が連携を必要とする学会への協力は、常任理事などが個人的に行っていた経緯があり、これを学会単位で行う場合の国際委員会の役割を検討して頂きたい」との要望がなされた。

2) 臨床検査医学会と海外の関連学会・機関との学術交流の推進

臨床検査医学会領域の国際関連学会の状況説明(伊藤委員より)と WASPaLM の概要説明(村上委員より)があった。

① WASPaLM や ACSPaLM などへの演題や演者の調整を支援する。

② 若手研究者の国際学会発表(WASPaLM, ACSPaLM)への経済的支援をする。

②に関しては理事会に対して予算的処置を要望していく事が確認された。

なお、若手の海外参加者の補助については、国際委員会で規定を検討していただくこととなった。

**O. 医療安全委員会**(米山彰子 担当理事)

1. 第 1 回 医療安全委員会(2008 年 11 月 27 日)

委員会の設立の経緯の説明のあと、今後の活動内容について話し合いがなされた。

2. 平成 20 年度は、第 55 回日本臨床検査医学会学術集会(名古屋)において、教育委員会と共催で「臨床検査医に必要な医療安全の知識」についての講演(船橋医療センター副院長 唐澤秀治先生)を行った。

3. 平成 21 年度は、第 56 回日本臨床検査医学会学術集会(札幌)において、医療安全に関するシンポジウムを企画している。

**【第 1 回 医療安全委員会 議事録】**

2008 年 11 月 27 日 11 時～12 時

出席：三井田(順天堂), 宮澤(帝京大),  
米山(虎の門), 山内(信州大),  
山田(自治医大), 森山(北大), 森下(名大),

横田(東大), 五十嵐(山形大),  
近藤(順天堂) 順不同 敬称略

### 1. 委員会設立の経緯と臨床検査

医療の質・安全学会や日本医師会を含む関連団体から医療安全全国共同行動が提案され、本学会もその参加・協力団体の一つとなっている。しかし、これまで本学会には医療安全管理を担当する委員会がなかった。医療安全委員会は、臨床検査医学会が会員に対して医療安全の啓発を行ったり・他の学会との協力を行ったりするために設立することとなった。当面の仕事として、医療安全の講演会を、総会、支部総会・例会など際に行う(評価機構との関係で、毎年一回は必要)。

日本医療機能評価の報告によると検査について2年間で23件のトラブルがあった。指示ラベルー検体など6段階に分かれるが、検体と採血実施の段階で半数を占める。日本医療評価機構の資料では、検査のヒヤリハットは3ヶ月で200件あり、検体の取り違えが26件、うち高度障害が2件あった。検体の取り違えは、病理にも多い。(米山理事・宮沢理事長より説明)

### 2. 委員会の目標

患者・会員(医療従事者)・医療施設を医療事故から守ることを目的とする。(医療事故が起きないようにするための方策と、実際に医療事故が起きてしまった場合の対応など、会員に役立つような情報提供や外部団体への働きかけ等の活動を行う。)

### 3. 委員会の活動内容

1)平成20年:総会において、医療安全委員会と教育委員会の共催で講演を予定

(教育委員会が企画。その後に本委員会ができたので、共催の形式になっている。)

「臨床検査医に必要な医療安全の知識」

船橋医療センター副院長 唐澤秀治先生

2)平成21年:札幌で行われる総会で、講演会を企画。

- シンポジウム形式
- 内容(各施設の問題点と工夫している事項を紹介してもらう)
  - a) 検査室の医療安全管理(医療安全委員会設立の趣旨と医療安全管理の総論的内容)
  - b) 臨床検査のヒヤリハット(虎の門病院の経験から、過去の検査過誤報告書の内容の変遷についてま

とめていただく)

c)採血のトラブル(神経損傷, クレーマーなど):日赤でまとめた資料があるのでは?杏林大学の多久先生?

d)検体や報告書の取り違え, 報告書の結果の見逃しなど(病理部門)

e)生化学などの検体部門のヒヤリハット事例と, 予防のための具体的な方法(指差し確認など)

f)当直に関するトラブル(不慣れな検査・手入力のミスなど)

g)来年度以降に, どのような事業を行う必要があるか Discussion する

### 3) 将来行う活動内容や講演会のテーマ

- 医療安全のために必要な改善の提言や関係者への要望
- 医療安全管理の担当者の公的資格の要望
- 医療訴訟について弁護士との講演
- 訴訟を介さない医療紛争の解決:メディエーターの講演
- 院内暴力に対する対応についてのシンポジウムや講演
- 安全管理一般に関する航空管制官の講演
- 死と臨床検査に関する講演

### 3. 委員会の開催

1)毎年行われる総会の前に会議を開催する

2)細かな意見交換は, メール会議の形式で行う。

### 4. その他

1)来年の講演会は, 北海道技師会との共催として, 総会に参加しない技師もシンポジウムを聞けるように配慮していただく。

2)医療事故を防止するための方法を追求し続けると, 検査のコストがかかりすぎたり, 効率が下がってしまう事がある。

### 3. 第55回日本臨床検査医学会学術集会報告

(登 勉 会長)

第55回日本臨床検査医学会学術集会

メインテーマ「進化する臨床検査」～病気の予防・診断から治療選択まで～

会 長: 登 勉(三重大学)

会 期: 平成20年11月27日～30日

会 場: 名古屋国際会議場

プログラム

会長講演

招請講演 2題

教育講演 3題

シンポジウム 10題

ワークショップ 2題

一般演題 388題(全て口頭発表)

ランチョンセミナー 19題

イブニングセミナー 1題

参加者総数 1659名(臨床検査管理医セミナーの参加者を除く)

多大なご支援と御協力をいただきました東海・北陸支部の関係者ならびに全国の会員、評議員、理事の皆様にご感謝申し上げます。また、プログラムの氏名の印刷ミスをはじめ、運営上の不行届きについて改めてお詫びします。

#### 4. 第56回日本臨床検査医学会学術集会報告

(松野一彦 会長)

平成21年8月26日(水)～30日(土)に、札幌コンベンションセンターで、「拡大する検査の力」のテーマで開催予定であり、現在一般演題を受付中であるが申込締切を3月末から4月24日まで延長すること、主な講演等のプログラムが報告された。

#### 5. 第57回日本臨床検査医学会学術集会報告

(宮澤幸久 会長)

平成22年9月9日～12日に、東京の京王プラザホテルで開催予定であることが報告された。

#### 6. 第58回日本臨床検査医学会学術集会報告

(小出典男 会長)

平成23年11月頃に、岡山で開催予定であることが報告された。

#### 7. WASPaLM会議報告(登 勉 理事)

2009年3月13～15日、第25回WASPaLM会議が、Royal College of Australasiaの年次集会Pathology Update 2009と共催でオーストラリア、シドニーで開催され、日本からは8名が出席、International Speakerとして3名、一般演題発表1名だったことが報告された。

#### 8. 基金増加の登記・一般社団法人の登記完了について(高木 康 総務担当)

一般社団法人化のため任意団体に残しておいた1000万円と利子(10,035,588円)を基金として組み入れ、基金は147,000,000円となり本登記はH20年11月25日に完了した。なお、基金増資した分は特別会計に移行した。そして、一般社団法人の登記については、12月1日に変更、12月2日に登記が完了した。なお、一般社団法人の代表理事は宮澤理事長と高橋副理事長の2名であることが報告された。

#### 9. 新名誉会員、功労会員、評議員の推薦について(宮澤幸久 理事長, 高木 康 総務理事)

本年は、学術集会在例年より3ヶ月ほど早いため、6月30日締切で、各支部より各資格要件を満たす名誉会員・功労会員・評議員の推薦依頼がされた。なお、評議員候補者については、定員は支部正会員の約10%で、県別、機関別の現在の評議員数と会員数を参考に偏りのないような推薦とすることが提案された。

#### 10. 第59回(平成24年度)学術集会長の推薦について(宮澤幸久 理事長)

各支部に6月30日締切で推薦依頼がなされた。

#### 11. 第9回特別例会長の推薦について

(宮澤幸久 理事長)

2011年4月に東京で開催される第28回日本医学会総会に合わせて第9回特別例会を開催するため、本特別例会長の推薦を、6月30日締切で関東・甲信越支部に依頼した。

#### 12. 第28回医学会総会 学術プログラム共同企画について(宮澤幸久 理事長)

2011年4月に東京で開催される第28回日本医学会総会(会頭：矢崎義雄)と本学会との学術プログラム共同企画として、本学会から提案したシンポジウム「予防医学に寄与する臨床検査」と追加された3企画について、諾否、司会、演者等の確認があり、承諾で返答予定であることが報告された。

13. 支部総会・例会の参加登録のための PC、バーコードリーダーの送付について

(高木 康 総務理事)

昨年名古屋での学術集会から会員証での参加登録を開始したが、本年度より各支部総会、例会、地方会でも同様な登録を行って頂くため、各支部に、そのためのパソコン、バーコードリーダーを送付していること、登録した名簿の送付方法等について報告があった。

14. 各種送金について(支部活動費,専門医試験費用,学術集会補助金,顧問料)(玉井誠一 会計理事)

平成 21 年度の支部活動費,専門医試験費用,学術集会補助金,顧問等の送金予定について報告された。

15. その他  
特になし。

【審議事項】

1. 平成 20 年度会計収支決算報告について

(玉井誠一 会計理事)

事業報告書,貸借対照表,損益計算書,損失処理案,監査報告書が提示され,玉井誠一会計理事から説明があり戸谷誠之,中原一彦監事より監査報告があり承認された。

2. 平成 21 年度選挙管理委員会設置について

(宮澤幸久 理事長)

平成 22~25 年度役員改選(理事 4 名,監事 1 名)にあたり,細則第 3 章 第 8 条「理事長は,選挙管理委員若干名を任命し,選挙管理委員会を組織する。」により,次の試験実行委員会委員(案)が報告され,承認された。

担当理事:米山彰子,委員長:村田満,  
委員:青木芳和,石和久,石橋みどり,福武勝幸

3. 平成 21・22 年度学術推進プロジェクト研究採択課題について(宮澤幸久 理事長)

21・22 年度学術推進プロジェクト研究に応募について学術推進化委員会で審査を行い,6 件を採択課題候補としたことについて諮られ,すべて承認された。ただし,その内 1 件は,研究プロジェクトに関する当該施設の(ゲノム)倫理委員会での承認後,研究代表者が学術推進化委員会委員長に報告・書類提出して頂き確認後,倫理委員会委員長の確認・承諾を得られた段階で,助成金を支給することとした。また,当初予算は年額 250 万円だったが採択課題が 6 件のため 300 万円への増額希望について諮られ,今回に限り承認された。

4. 評議員再任結果について(平成 21 年 1 月 1 日付)(宮澤幸久 理事長,高木康 総務理事)

平成 21 年 1 月 1 日付での評議員再任(更新)者 10 名について,昨年 12 月 20 日に審議会で審査委員会を開催した審査結果について諮られ,全員再任単位を満たしているため承認された。

2006 年 1 月 1 日付再任者 4 名は,毎年,再任書類を送付し,また支部からも確認して頂いたが再任申請書類の提出がないため,審査委員会で検討した結果,評議員は辞退頂くことについて諮られ,承認された。

5. その他 (高木康 理事)

次回以降の理事会日程は,平成 21 年度 第 2 回:5 月 30 日(土),第 3 回:8 月 8 日(土),第 4 回:12 月 19 日(土)の予定で開催される旨報告された。

閉会

高橋伯夫副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

日本臨床検査医学会 平成 20 年度  
に係る定時社員総会 だより

日 時：平成 21 年 3 月 29 日(土) 15：00～15：30  
場 所：国立大学財務・経営センター  
(学術総合センター) 2F 中会議室 2～4  
東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1 番 2 号  
(101-0052) TEL：03-4212-6321  
出 席：社員(評議員)30 名, 名誉会員 5 名,  
功労会員 1 名  
委任状：176 通

宮澤幸久理事長が、議長となり、当定時社員総会  
は、社員出席者数と委任状数が過半数を越えるため、  
当会は成立されることが報告され、議事が進められ  
た。

会議の目的事項

決議事項

第 1 号議案 計算書類承認の件

当議案について、事業報告書、貸借対照表、損益計  
算書、損失処理案、監査報告書が提示され、玉井誠  
一会計理事、より説明がなされ戸谷誠之監事より監  
査報告があり、本事項は承認された。

<第 1 号議案>  
計算書類の承認

事業報告書

平成 20 年 1 月 1 日から平成 20 年 12 月 31 日まで

I 事業の概況

1 事業の経過及び実績

(1) 社会公共性への取り組み

法律の改正に対応し、本法人の定款の改定を行い、有限責任中間法人から、一般社団法人へ本  
年 12 月に移行いたしました。学術集会等で臨床検査の社会的役割についての啓蒙活動を継続し  
ております。また、厚生労働省等の各種委員会で理事長等の社員が、医療における臨床検査の  
重要性について意見を述べ、臨床検査科を標榜科とすることができ、一部の病院で診療科とし  
ての活動が開始されました。さらに、診療報酬の改定においても、臨床検査の重要性に関して  
の再評価を反映させることができました。専門医制度の確立が社会的に求められていますが、  
本年 11 月には、本法人の臨床検査専門医制度は、日本専門医制評価・認定機構の専門医制度整  
備指針の基準に沿った基本領域の学会の専門医制度として認定証を受理いたしました。

(2) 学会活動

学会活動の一環として、①平成 20 年 11 月 27 日～30 日に、愛知県名古屋市中で第 55 回学術集  
会を開催、②雑誌「臨床病理」の年 12 回刊行、③臨床検査医学に関連する各種委員会の開催、  
④認定「臨床検査管理医」制度の着実な発展など、広い学会活動を行いました。この結果、減  
少傾向にあった会員数が、増加に転じました。しかしながら、決算時点では、会費収入、事業  
収入がともに減少したため、事業利益は 1,014,117 円、当期純損失は、22,904 円となりました。

2 対処すべき課題

(1) 専門医資格管理

日本専門医制評価・認定機構は、専門医の資格更新等に必要な条件となる学術集会への参加実  
績管理を求めています。従来の本法人の管理方式である参加証発行とこれの審査では十分な管  
理とはいえないとの結論に達し、写真入り ID カード形式の会員証の発行と、参加登録方式を採用  
することとしました。

日本臨床検査医学会ニュース

- (2) 学会活動の活性化  
 学術団体としての臨床検査医学会のさらなる活性化を推進するために、①学術推進プロジェクトのさらなる推進、②各種委員会の活性化などを更に継続・発展させることが必要と考えています。
- (3) 社会が求める臨床検査に関わる倫理観の向上  
 臨床検査に関する研究等で、社会的に問題となる倫理関連事案が報道されました。臨床研究に関する倫理的な指針等を参考として、臨床検査に関する研究の倫理的な指針を作成、公表し、臨床検査に携わる全ての人々に周知徹底させる必要があると考えています。

3 設備投資の状況

当期における資産の取得状況はありません。

4 営業成績及び財産の状況の推移

(単位：円)

	区分	平成18年度 第1期 18.2.2~18.12.31	平成19年度 第2期 19.1.1~19.12.31	平成20年度 第3期 20.1.1~20.12.31
1	会費収入	38,423,475	40,205,000	38,811,475
2	事業収入	34,890,090	36,205,053	30,933,441
3	学術大会収入	12,000,000	12,000,000	12,000,000
4	補助金収入	200,000	0	0
5	寄付金収入	2,000,000	1,000,000	1,500,000
6	事業損益	△1,879,064	3,503,403	1,014,117
7	経常損益	△1,669,900	3,696,740	88,945
8	当期純損益	△1,728,200	3,021,782	△22,904
9	総資産	139,316,575	151,499,934	167,495,547
10	純資産	135,236,212	138,257,994	148,270,678
11	基金	136,964,412	136,964,412	147,000,000

## II 法人の概況

### 1 主な事業内容

本法人は、臨床検査医学（臨床病理学）に関する学理及びその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互及び内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、臨床検査医学（臨床病理学）の進歩・普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与することを目的として次条の事業を行う。

- ① 総会、講演会、学術集会の開催
- ② 学会機関誌、学術図書及びその他の刊行物の発行
- ③ 学会臨床検査専門医、臨床検査管理医の資格認定に関すること
- ④ 臨床検査技術士、緊急臨床検査士およびその他の臨床検査に係わる資格認定に関すること
- ⑤ 世界病理・臨床検査医学会連合〔World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM)〕ほか内外の関連諸学術団体・協会との連絡並びに協力活動
- ⑥ その他本法人の目的を達成するために必要な事業

### 2 社員（平成20年12月31日現在）

290名

### 3 役員（平成20年12月31日現在） 20名

理事	宮澤幸久（理事長・代表理事）
	高橋伯夫（副理事長・代表理事）
	石 和久
	熊谷俊一
	小出典男
	犀川哲典
	三家登喜夫
	諏訪部章
	高木 康
	玉井誠一
	荻原順一
	登 勉
	福武勝幸
	松野一彦
	宮地勇人
	村田 満
	矢富 裕
	米山彰子
監事	戸谷誠之
	中原一彦

### 4 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実 記載すべき事項は、ありません。

日本臨床検査医学会ニュース

貸借対照表

平成20年12月31日現在

一般社団法人日本臨床検査医学会

(単位：円)

科目	金額	科目	金額
資産の部		負債の部	
I 流動資産	163,408,279	I 流動負債	19,224,869
現預金	163,071,900	未払消費税	399,900
未収還付法人税等	297,500	未払費用	5,834,331
仮払金	38,879	前受金	8,923,000
II 固定資産	4,087,268	預り金	298,160
1. その他固定資産	4,087,268	仮受金	3,734,578
(1) 有形固定資産	192,308	未払法人税等	34,900
建物附属設備	263,550	負債合計	
△減価償却累計額	△71,242		19,224,869
(2) 無形固定資産	305,760		
電話加入権	305,760	純資産の部	
(3) 投資その他の資産	3,589,200	I 基金	147,000,000
差入保証金	3,589,200	II 一般正味財産	1,270,678
		当期末処分剰余金	1,270,678
		純資産合計	
			148,270,678
資産合計	167,495,547	負債・純資産合計	167,495,547



日本臨床検査医学会ニュース

剰余金処分案

平成21年3月29日

一般社団法人日本臨床検査医学会

(単位：円)

項 目	金 額
I 前期繰越剰余金	1,293,582
II 当期純損失	<u>△ 22,904</u>
III 次期繰越剰余金	<u><u>1,270,678</u></u>

私は、平成20年1月1日から平成20年12月31日までの第3期事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告書を作成し、次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

監事は、社員総会その他重要な会議に出席するほか、理事等から事業の遂行の状況について報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、主たる事務所等において業務及び財産の状況を調査しました。また、会計帳簿等の調査を行い、計算書類及び附属明細書につき検討を加えました。

2. 監査の結果

- (1) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、貸借対照表及び損益計算書の記載と合致しているものと認めます。
- (2) 貸借対照表及び損益計算書は、法令及び定款に従い、法人の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 事業報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (4) 剰余金の処分に関する議案は、法令及び定款に適合し、かつ、法人財産の状況その他の事情に照らし指摘すべき事項は認められません。
- (5) 附属明細書は、記載すべき事項を正しく示しており、指摘すべき事項は、認められません。
- (6) 理事の職務遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

平成21年 3 月 13 日

一般社団法人日本臨床検査医学会

監事 戸谷 誠之 ㊟

監事 中原 一彦 ㊟